

●図表1 在宅復帰・在宅療養支援等指標の指数（目標と実績）

	目標	2018年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
①在宅復帰率（前6カ月平均）	10	20	20	10	10	10	10	10	10
②ベッド回転率（前3カ月平均）	20	20	20	20	20	20	10	10	20
③入所前後訪問指導割合（前3カ月平均）	5	0	0	0	5	0	5	5	5
④退所前後訪問指導割合（前3カ月平均）	5	0	0	5	5	10	10	10	10
⑤居宅サービスの実施数	3	3	3	3	3	3	3	3	3
⑥リハ専門職の割合配置	3	3	3	3	3	3	3	3	3
⑦支援相談員の配置割合	3	3	3	3	3	3	3	3	3
⑧要介護4または5の割合（前3カ月平均）	3	3	3	3	3	3	3	3	3
⑨喀痰吸引の実施割合（前3カ月平均）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩経管栄養の実施割合（前3カ月平均）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	52	52	52	47	52	52	47	47	57

なっている」は28.6%）。また「2013年と調査日時点の直近の決算期を比較した収支の推移」では、全体で「悪くなっている」との回答が約46.1%と最多（「改善している」は約31.6%）であり、特に「基本型」老健は

「悪くなっている」との回答が約50%を占めた。

改定後もベッド稼働率 93%超を維持

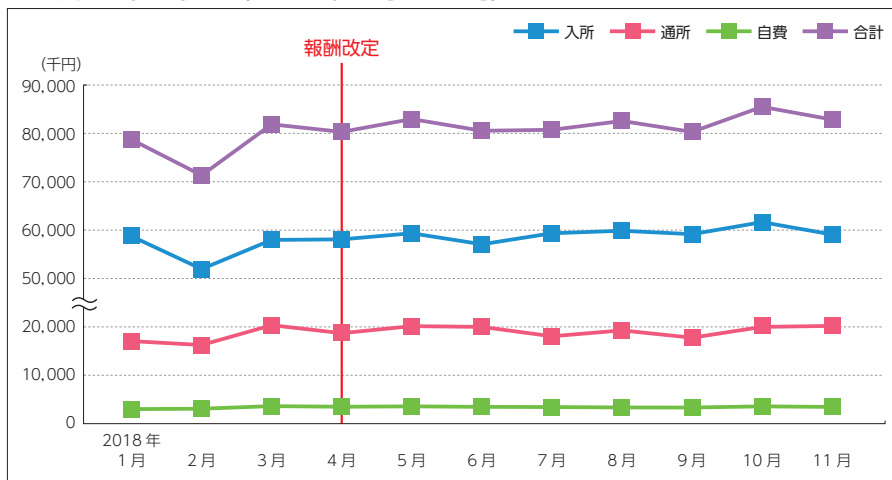
そうした老健を取り巻く厳しい経営状況に関して、ソルヴィ

ラージュ事務長の齋藤雅彦氏は次のように指摘する。

「やはり老健が“在宅扱い”から外れたことにより、病院からの紹介が激減する一方で、厳格な要件の新指標導入によって、私たち老健も在宅復帰・在宅療養支援をさらに進めることが要求されます。特に、新指標の追加要件(③～⑦：図表1参照)をクリアできない施設は、減額された“その他”型へと施設基準を下方修正せざるを得ない。そうしたジレンマの中、老健全体で稼働率の低下と収益ダウンを招く状況が顕在化しつつあるのだと思います」。

ただ、ソルヴィラージュは現在「加算型」で運営しているが、同時改定後も順調に推移しており、ベッド稼働率もほぼ93%超を維持している(図表2・3)。その要因について齋藤氏は、「日野病院の増床が可能になり、入院患者数がほぼ2倍に増加し入退院が活発化したこと。さらに、地域のケアマネジャーとの連携を強化し、在宅からの入所を増やす努力をし続けてきたことが功を奏したと思います。新

●図表2 経営状況（2018年1月～11月）



●図表3 改定前後のベッド稼働率

